

# 自主防災組織に参加しよう

大災害が発生したとき、交通網の寸断などにより、消防や警察などの公共機関が十分に対応できない可能性もあります。そんなときに力を発揮するのが「自主防災組織」です。

自主防災組織とは、地域の人々が自発的に防災活動を行う組織です。「自分たちのまちは自分たちで守る」という心がまえで、積極的に自主防災組織の活動に参加し、災害に強いまちをつくりましょう。



## 平常時の活動

### ● 地域内の防災環境の確認

災害発生時に、地域内に被害の拡大につながる原因がないか、また一人暮らしの高齢者世帯など援助を必要としている人がいないかなどの確認を行う。



### ● 防災訓練の実施

災害を想定して訓練を行い、消火器の使用法や応急手当など、防災活動に必要な知識や技術を習得する。



### ● 防災知識の普及

防災地図や防災カレンダーの作成、防災新聞の発行、防災講演会、防災イベントなどを通して、住民一人ひとりが防災に関心を持ち、準備するよう取り組む。



### ● 防災資機材の整備

災害発生時に必要とされる資機材を、地域の実情に応じて準備しておく。また、定期的に点検や使用方法を確認する。



## 災害時の活動

### ● 初期消火

### ● 避難誘導

### ● 安否確認

### ● 救出・救助

負傷者の救出、救護所への搬送など。



### ● 情報の収集・伝達

災害に関する正しい情報の収集とその伝達を行う。

### ● 避難所の管理・運営

水や食料などの配分、炊き出しなどの給食・給水活動。



# 災害時要援護者を災害から守ろう

突然の災害に見舞われたとき、大きな被害を受けやすいのは、高齢者や乳幼児、障がい者、傷病者など、なんらかの手助けが必要な人（災害時要援護者）です。災害時要援護者を災害から守るために、地域で協力し合いながら支援していきましょう。



## 災害時要援護者との交流を密にする

日ごろから近隣に住む災害時要援護者とあいさつを交わすなど交流を深めておく。また、プライバシーや本人の意思などに配慮しながら、支援のニーズを聞いておく。



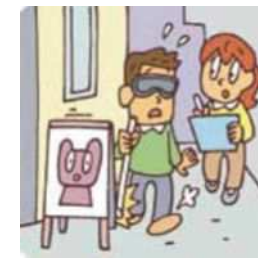
## 災害時要援護者を把握する

近くに災害時要援護者が住んでいるかどうかを把握しておく。もし災害時要援護者がいれば、「要援護者台帳」への登録に協力してもらおう。



## 防災環境を点検する

避難路は車いすで通れるか、目の不自由な人にとって障害物がないかなど、災害時要援護者の身になって確認する。



## 一緒に防災訓練に参加する

災害時要援護者と一緒に防災訓練を行う。その際、災害が起きたときの安否確認や避難支援など、具体的な救援体制を決めておく。



## 困ったときは温かい気持ちで

災害時の混乱や被害が大きいときほど、困っている人に温かい思いやりをもって接するようにしましょう。



## 災害時要援護者を誘導するポイント



### ● 目が不自由な人

- ひじにつかまってもらい、歩行速度に気をつけながら支援者が先に立って誘導する
- 進むべき方向は「〇時の方向です」と時計の針で表現する

### ● 車いすを利用している人

- 階段は3人以上で援助を。上りは前向き、下りは後ろ向きで移動する

### ● 耳が不自由な人

- 口を大きく動かし、ゆっくりはっきりと話す
- 身振りや筆談、携帯電話の画面表示などで正確な情報を伝える